

# Oracle® Records Manager Corporate Edition

リリース・ノート

10g リリース 3 (10.1.3.3.2)

部品番号 : E06034-01

原典情報 : Oracle Records Manager Corporate Edition Release Notes, 10g Release 3 (10.1.3.3.2)

2008 年 1 月

---

このリリース・ノートでは、Records Manager Corporate Edition のこのリリースでの新機能および拡張機能の概要を示します。また、Records Manager Corporate Edition 10g リリース 3 (10.1.3.3.2) に関する固有のインストールおよび実装の考慮事項について説明します。

## 1 新機能および拡張機能

Records Manager Corporate Edition のこのリリースには、次の機能および拡張機能があります。

### 10g リリース 3 の旧リリースとの比較

Records Manager Corporate Edition のこのリリースでは、ユーザー・インタフェースがローカライズされています。サポートされる言語は、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語 (ブラジル)、イタリア語、オランダ語、中国語 (繁体字および簡体字)、日本語および韓国語です。Records Manager Corporate Edition のユーザー・インタフェースの言語にかかわらず、ソフトウェアのヘルプは英語です。

Records Manager Corporate Edition の実装の詳細は、[3 項「インストールの考慮事項」](#)を参照してください。

### Content Server 10g リリース 3 との互換性

Records Manager Corporate Edition のこのリリースは、Content Server 10g リリース 3 とシームレスに連携して動作するように設計されています。Records Manager Corporate Edition 10g リリース 3 ソフトウェアをインストールする前に、Content Server 10g リリース 3 (10.1.3.3.2) がインストールされ、正しく機能している必要があります。

## 2 Records Manager の新機能

リリース 7.1.4 からのインタフェースへの変更は次のとおりです。

- 処理する保存タスクは、トレー・メニューではなくプルダウン・メニューから使用できるようになりました。
- 拡張スクリーニングは使用できなくなりました。この機能は、標準のスクリーニング機能に統合されました。
- Simple Profile 機能が製品にバンドルされ、この製品で使用できます。この機能により、各サイトの使用に応じて製品をカスタマイズするためのプロファイルを設定できます。デフォルトのプロファイルを使用すると、コンテンツのチェックイン画面に表示される情報を最小限に抑えるのに役立ちます。

**ORACLE®**

Copyright © 1996, 2007, Oracle.  
All rights reserved.

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Records Manager Corporate Edition は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

- トリガー・タイプ・オプションとして、休止状態のグローバル・トリガーを選択できなくなりました。トリガーの作成時にアクティブ化日付を指定しなければ、休止状態のグローバル・トリガーを作成できます。
- 「Configure Retention Components」 ページは、保存スケジュールの要素（トリガー、処理など）の構成に使用されなくなりました。製品の全体にわたって、この種のすべての機能を利用できるようになりました。
- 事前定義済のリンク（関連コンテンツ）タイプを編集できるようになりました。デフォルトでは、コンテンツ・アイテムの新しいリビジョンとのメイン・リンクが選択されています。この設定は、リンクがリビジョンに依存するように変更できます。
- スクリーニングに使用するインタフェースが変更されました。ドロップダウン・メニューから選択できるようになり、スクリーニングのすべての関数でブール型演算子を選択できるようになりました。
- クエリー・ビルダー機能が標準検索機能の一部として組み込まれています。このオプションにアクセスするには、検索ページの右上にある「Search Forms」メニューから「Query Builder Form」 オプションを選択します。
- 検索を実行して、凍結解除オプション・リストにすべての凍結を返すことができます。「Unfreeze」 オプションが使用可能になり、凍結解除アクションを使用する複数のアイテムを選択できます。どのコンテンツ・アイテムにも適用されていない凍結を使用してアイテムの凍結解除を選択すると、コンテンツ・アイテムは凍結解除されません。

### 3 インストールの考慮事項

Records Manager Corporate Edition のインストールのシステム要件および手順は、『Records Manager Corporate Edition Installation Guide』を参照してください。Records Manager Corporate Edition 10g リリース 3 (10.1.3.3.2) を使用する際は、特に次の点に注意が必要です。

- PopupCalendarEx コンポーネントは、PopUpCalendar および YahooUserInterfaceLibrary の各コンポーネントに置き換えられました。Records Manager をインストールする前に、PopUpCalendarEx を無効化し、アンインストールしてください。
- ACL ベースのセキュリティを使用する場合、「Group」 フィールドおよび「User Permissions」 フィールドの文字数は、最大 100 文字に制限されています。ACL を使用して、トリガー、カテゴリおよびフォルダ・オブジェクトに対する追加のアクセス制限を設定できます。これらは「Trigger」、「Records Category」 および「Records Folder」の各ページに表示されます。
- Web サーバーのデフォルト・キャラクタ・セットを UTF-8 以外に設定すると、全角ダッシュ（一） および曲線引用符などの Windows 固有の文字が正しく表示されません。デフォルトでは、Apache Web サーバーは 8859-1 に設定されています。UNIX でヘルプ・システムのすべての文字を正しく表示するには、Web サーバーのキャラクタ・セットが UTF-8 に設定されていることを確認してください。
- Retention Category、Record Folder または Physical Records Profiles を構成するには、Content Server Admin 権限が必要です。デフォルトでは、この権限はどのロールにも割り当てられていません。メニューの Profiles 構成オプションは、この権限を割り当てた後に初めて表示されます。
- Verity 検索 / 索引エンジンには、Records Manager Corporate Edition で生成された PDF レポートの索引付けに関して問題があります。全文索引は失敗し、メタデータのみが索引付けされます。この問題を回避するには、次の 2 通りの方法があります。
  - Verity 5.5 にアップグレードし、Adobe のフィルタ (flt\_pdf) ではなく、Verity Keyview フィルタ (flt\_kv) を使用するように Verity を構成します。

- PDF 以外のレポート形式を使用します。Records Manager Corporate Edition は、HTML、MS Excel (XLS) および XML をサポートします。レポートの形式は、「Configure Retention Management」ページで設定できます。

### 3.1 ReportMaker コンポーネントの考慮事項

ReportMaker コンポーネントを使用するときは、次の点を考慮してください。

#### ローカル言語での ReportMaker PDF 出力

Unicode 文字を使用して、ReportMaker をローカル言語用に構成できます。reportmaker\_environment.cfg ファイルに 2 つの変数を設定して、Unicode 文字を有効化し、使用する言語を定義する必要があります。Times Roman は、常に文字のデフォルト・フォントとして使用されます。したがって、Times Roman を指定する必要はありません。

使用可能な Unicode 言語のキーは次のとおりです。

- SimplifiedChinese
- TraditionalChinese
- Korean
- Japanese

リリース 10.1.3.3.2 では、URM 言語パックをコンポーネントとしてインストールできます。URM のインストール時に、URM 言語パックを追加コンポーネントとして選択するためのプロンプトが表示されます。

#### Unicode 文字の構成変数

ReportMaker の PDF 出力で Unicode 文字を使用できるようにするには、次の変数を reportmaker\_environment.cfg に追加する必要があります。

```
IsAllowUnicodeCharactersInPDFReports=true
```

また、PDF 出力で使用するローカル言語を定義するには、次の変数を reportmaker\_environment.cfg に追加する必要があります。

```
UnicodeCharactersLanguageLookUpList=language1, language2
```

## 4 ユーザー・ドキュメント

Records Manager Corporate Edition には、包括的なオンライン・ヘルプ・システムと完全な PDF ドキュメント・セットが付属しています。Records Manager Corporate Edition のヘルプ・ファイルは、Content Server のヘルプ・システムの一部であり、Content Server アプリケーションまたはファイル・システムからアクセスできます。

- Content Server アプリケーションからヘルプ・システムを表示するには、ユーザー・インタフェースで任意の「Help」リンクをクリックします。ヘルプ・システムをすべて表示するには、管理者としてコンテンツ・サーバーにログインする必要があります。それ以外では、管理者ヘルプ・システムの一部の情報のみを含むユーザー・ヘルプが表示されます。管理者オンライン・ヘルプの「Welcome」リンクからは、ヘルプ・システムの使用に関する有用な情報が表示されます。
- ファイル・システムからヘルプ・システムを表示するには、<install\_dir>/weblayout/help/ ディレクトリに移動し、wh\_start.htm ファイルを開きます。これにより、完全な管理者ヘルプが起動します。管理者オンライン・ヘルプの「Welcome」リンクからは、ヘルプ・システムの使用に関する有用な情報が表示されます。

Records Manager Corporate Edition のドキュメントは、PDF ファイルでも提供されています。これらの PDF ファイルにアクセスするには、Records Manager Corporate Edition ヘルプ・システムの各ページの右上にある「PDF」アイコンをクリックします。

### 英語のソフトウェア・ヘルプ・システム

ユーザー・インターフェースの言語にかかわらず、Records Manager Corporate Edition のソフトウェア・ヘルプ・システムは英語です。

## 5 ドキュメントのアクセシビリティについて

オラクル社は、障害のあるお客様にもオラクル社の製品、サービスおよびサポート・ドキュメントを簡単にご利用いただけることを目標としています。オラクル社のドキュメントには、ユーザーが障害支援技術を使用して情報を利用できる機能が組み込まれています。HTML 形式のドキュメントで用意されており、障害のあるお客様が簡単にアクセスできるようにマークアップされています。標準規格は改善されつつあります。オラクル社はドキュメントをすべてのお客様がご利用できるように、市場をリードする他の技術ベンダーと積極的に連携して技術的な問題に対応しています。オラクル社のアクセシビリティについての詳細情報は、Oracle Accessibility Program の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のサンプル・コードのアクセシビリティについて

スクリーン・リーダーは、ドキュメント内のサンプル・コードを正確に読めない場合があります。コード表記規則では閉じ括弧だけを行に記述する必要があります。しかし JAWS は括弧だけの行を読まない場合があります。

### 外部 Web サイトのドキュメントのアクセシビリティについて

このドキュメントにはオラクル社およびその関連会社が所有または管理しない Web サイトへのリンクが含まれている場合があります。オラクル社およびその関連会社は、それらの Web サイトのアクセシビリティに関しての評価や言及は行っておりません。

### Oracle サポート・サービスへの TTY アクセス

アメリカ国内では、Oracle サポート・サービスへ 24 時間年中無休でテキスト電話 (TTY) アクセスが提供されています。TTY サポートについては、(800)446-2398 にお電話ください。

## 6 サポートおよびサービス

次の各項に、各サービスに接続するための URL を記載します。

### Oracle サポート・サービス

オラクル製品サポートの購入方法、および Oracle サポート・サービスへの連絡方法の詳細は、次の URL を参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/support/>

### 製品マニュアル

製品のマニュアルは、次の URL にあります。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

### 研修およびトレーニング

研修に関する情報とスケジュールは、次の URL で入手できます。

<http://www.oracle.co.jp/education/>

## その他の情報

オラクル製品やサービスに関するその他の情報については、次の URL から参照してください。

<http://www.oracle.co.jp>

<http://otn.oracle.co.jp>

---

---

**注意：** ドキュメント内に記載されている URL や参照ドキュメントには、Oracle Corporation が提供する英語の情報も含まれています。日本語版の情報については、前述の URL を参照してください。

---

---

Oracle Records Manager Corporate Edition リリース・ノート、10g リリース 3 (10.1.3.3.2)

部品番号 : E06034-01

原本名 : Oracle Records Manager Corporate Edition Release Notes, 10g Release 3 (10.1.3.3.2)

Copyright © 1996, 2007, Oracle. All rights reserved.

制限付権利の説明

このプログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）には、オラクル社およびその関連会社に所有権のある情報が含まれています。このプログラムの使用または開示は、オラクル社およびその関連会社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権と工業所有権に関する法律により保護されています。

独立して作成された他のソフトウェアとの互換性を得るために必要な場合、もしくは法律によって規定される場合を除き、このプログラムのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更される場合があります。オラクル社およびその関連会社は、このドキュメントに誤りが無いことの保証は致しません。これらのプログラムのライセンス契約で許諾されている場合を除き、プログラムを形式、手段（電子的または機械的）、目的に関係なく、複製または転用することはできません。

このプログラムが米国政府機関、もしくは米国政府機関に代わってこのプログラムをライセンスまたは使用する者に提供される場合は、次の注意が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the Programs, including documentation and technical data, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement, and, to the extent applicable, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software--Restricted Rights (June 1987). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このプログラムは、核、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションへの用途を目的としておりません。このプログラムをかかるとして使用する際、上述のアプリケーションを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。万が一かかるプログラムの使用に起因して損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

Oracle, JD Edwards, PeopleSoft, Siebel は米国 Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありえます。

このプログラムは、第三者の Web サイトへのリンク、第三者のコンテンツ、製品、サービスへアクセスすることがあります。オラクル社およびその関連会社は第三者の Web サイトで提供されるコンテンツについては、一切の責任を負いかねます。当該コンテンツの利用は、お客様の責任になります。第三者の製品またはサービスを購入する場合は、第三者と直接の取引となります。オラクル社およびその関連会社は、第三者の製品およびサービスの品質、契約の履行（製品またはサービスの提供、保証義務を含む）に関しては責任を負いかねます。また、第三者との取引により損失や損害が発生いたしましても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

